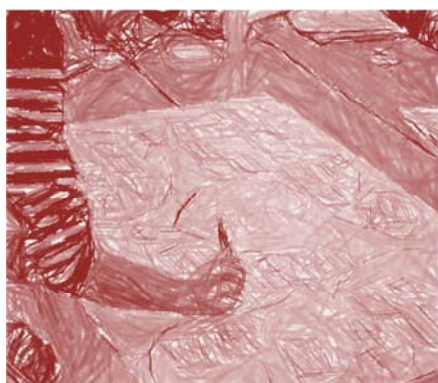


市民まちづくり塾 まとめ

平成25年4月



はじめに

私たちは、三次市のまちづくりの総合指針となる「三次市総合計画」の策定にあたり、「情報共有（学び、考え）、参加（話し合い）、行動（取り組む）」することで、対話と協働によりめざすべき将来の理想の姿を創造するため、「市民まちづくり塾」に参加しました。

市民まちづくり塾では、まち・ゆめ基本条例に示されているまちづくりの目標別に6つの分野に分かれて、「市民のしあわせ」や「理想のまちの姿」などについて、何度も意見を交換してきました。

少子高齢化の進行や経済状況の変化とともに、私たちが抱える課題も大きく変化する中、市民まちづくり塾への参加を通じて、たくさんの仲間と出会い、議論した時間は大変有意義でした。また、年齢や性別、職業の違いはあっても、市民まちづくり塾に参加する誰もが、三次を愛し、その将来に夢を持ち、少しでもよくしていきたいと考えていることに勇気づけられました。

これは、私たちが市民の視点で三次市のまちづくりの方向性を検討した内容をまとめたものです。まとめの中で示した、「理想のまちの姿」や「実現に向けた取り組み」は、たくさんの議論のほんの一部に過ぎませんが、私たちの思いが三次市のまちづくりに活かされることを心から望んでいます。

また、私たち市民一人ひとりがまちづくりに参加し、市議会・行政と力をあわせ、「三次に住んで良かった」としあわせを実感できるまちをつくっていきたいと思います。

平成25年4月

市民まちづくり塾

まちづくりの基本「三次市まち・ゆめ基本条例」

三次市まち・ゆめ基本条例は、まちづくりや自治体運営について、私たち（市民と市議会及び市）が尊重しなければならない基本理念や基本原則を定めており、市民まちづくり塾では、「まち・ゆめ基本条例」のまちづくりの目標である次の6つの分野に分かれて、議論を進めました。

まちづくりの目標

- (1) 共に認めあい、支えあう、温かみと安心感のあるまちづくり
- (2) 自然との共生を図り、安全で快適に暮らせるまちづくり
- (3) 次世代を担う子どもたちが夢と希望を抱き、健やかに成長できるまちづくり
- (4) 歴史と伝統を継承するとともに、学ぶ喜びをもてるまちづくり
- (5) 地域活動が活発で、にぎわいと活力に満ちたまちづくり
- (6) 多様な仕事を興し、地域産業に活力を与え、働く喜びをもてるまちづくり

この目標は、まちづくりの基本理念である「市民のしあわせ」を実現するために、それぞれの主体が協働して取り組む方向性を示したものです。また、条例では、取り組みを進める上での柱となる3つ原則が定められており、この原則に基づき、まちづくりを進めていきます。

まちづくりの基本理念 「市民のしあわせ」



まちづくりの原則

協働のまちづくり

まちづくりの原則

市民参加のまちづくり

まちづくりの原則

情報の共有と公開

「いきいき健康日本一のまち」

体制

○連携 ～医療・福祉・保健・介護で情報共有している。～
これを実現させるため…

- ・1患者、1地域、1カルテを確立させる。⇒個人情報同意の方法を確立する。
- ・地域の包括ケアシステムを発展させる。

（医・福・保の連携、ワンストップ相談窓口）

- ・行政、大学病院、医療機関のネットワークを確立する。
（例：あじさいネットワーク）

- ・（仮称）高齢者手帳によって、医、介、薬、家族の情報を共有する。
⇒何を伝えるのか明らかにする。（ミニマムセッティングの決定）
- ・医、介のカンファレンスを開催する。

○現在の充実した医療体制を堅持していく。

高齢者・障害者

○高齢者の地域社会での役割
～知識や活力を地域社会で活かす場がある。～
これを実現させるため…

★高齢者の活躍の場をつくる。⇒例えば老人クラブに入るなど、集まる場所をつくる。老人クラブの目的を示すことで、支え合いという考え方を理解してもらう。

- ・高齢者の交流をすすめる。（地域・学校など）
- ・趣味などのカテゴリーで新しいつながりをつくる。

○バリアフリー

～障害者・高齢者等の視点による社会資本整備ができています。～
これを実現させるため…

- ★高齢者、障害者の移動のため、整備が必要な個所のリストアップを行う。
- ・障害者に対してやさしいまちとして情報発信を行う。
- ・市民バス（地域内交通）の充実

「地域の温かみと安心感のあるまち」

★：たくさんの実現策のなかで、
私たちができること
赤字：特に優先的に取り組む
べきもの

「共に認め合い絆で支え合うまち」

★ つながり・地域

○福祉行政を補完するネットワーク
～地域でのつながり、自助・共助の総合的推進～
これを実現させるため…

- ・向こう三軒両隣を復活させる⇒個人情報同意の方法を確立する。
- ・テーマ性のあるコミュニケーションの場をつくる。

○ボランティア ～参加促進と活躍の場の確保～
これを実現させるため…

- ・ボランティアに積極的に参加する。
- ・ボランティア登録制度を制定する。⇒男性の参加を促す。
- ・地域コーディネーター制度を作り、ボランティアと利用者のマッチングをする。

○認知症 ～関心をより高める～
これを実現させるため…

- ・認知症サポーター養成を発展させる。
- ・地域の見守りを充実する。

「健康寿命の延伸をめざすまち」

★ 予防

○健康づくりのための動機づけ ～自分の健康は自分で守る。～
これを実現させるため…

- ・健康診断を積極的に受診する。
- ・子どものころから健康の大切さを伝え、予防の動機づけをする。
- ・健康診断の受診を促すため、受診率以外の事業効果を測定し、公表する。
⇒啓発の対象者をはっきりさせる。
- ・生活習慣病の予防を推進する。
⇒子ども、妊婦、若い親の食育を図る。
積極的に適度な運動をする。
運動施設の充実を図るとともに運動プログラムの広報をする。
煙草対策（禁煙・教育・マナーなど）を推進する。

- ・自殺やストレス対策を推進する。
- ・患者や家族が主体的に病気と向き合うため病気に関する知識を高める。
⇒患者図書館を設置する。

子育て（医療・福祉面から）

○医療費の助成 ～安心して子育てができる。～
これを実現させるため…

- ・子どもの医療費の助成（0歳～中学卒業まで）を維持する。
- ・子育てしやすい街ということをWEBで強力な情報発信をする。
（見せ方の工夫や検索性の向上）

○人的助成 ～要介護者、子どもがいても仕事ができる。～
これを実現させるため…

- ・子どもが病気の時や介護で休める仕組みをつくる。
- ・人的な手助けができるような仕組みをつくる。

「安心して子育てができるまち」

「いろんな人が意見を出し合えて、
参加できる人輝くまち」

人・地域

- ★女性や若い世代、新しく三次にきた人の意見が反映されやすい仕組みをつくる
- ★広く意見をきき、正しく伝えることのできる市民を増やす
- ・市民と行政職員が気軽に意見を交換できる場をつくる
- ★客観的な視野をもつ、専門的人材やリーダーを育成する
- ・自治連合会へのサポートを強化する
- ★女性のステップアップにつながる事業を実施する
- ★地域の絆を深める取組を行う
- ・中高大学で地域づくりの授業を行い、地域愛を育む
- ★出前講座を活用し、各種事業の周知を図る
- ・市民提案事業の復活など、市民の意見が事業に反映できる仕組みをつくる

★：たくさんの実現策のなかで、
私たちができること

「新しい可能性を創造できるまち」

都市・交通

- ・田舎と都会のあいだのまちの存在感を活かす
- ★空き家バンクと農家民泊、農業体験などの連携を図り、移住お試し期間を設定する
- ★所有者へのアプローチ方法を工夫する
- ・重点エリアを定める
- ・大学等との連携や市民による番組づくり・放送など、ピオネットをしっかりと活用し、加入者を増やす
- ・空き店舗を活用した異業種オフィスやインターン制度など、企業を支援する仕組みをつくる
- ・下水道への接続促進のための補助金を充実する

安全・防災

- ★連絡網の整備など、災害時に備えて常会機能を強化する
- ★避難場所の周知など、防災意識を高める取組を進める
- ★企業や女性へ積極的に呼びかけ、消防団員を育成する
- ★地域の絆を深め、安心して生活できる環境をつくる
- ・3.11の教訓を活かし、防災訓練や対策をしっかりと行い、被災地支援ができるまちになる
- ・音声告知放送を活用し、防災情報を迅速に伝達する
- ★コンビニなど民間の協力を仰いで、明るい場所がある安心感をつくる

「思いやりと絆で築くやさしいまち」

- ・JRとバスの接続を良くするなど、利用者が使いやすいダイヤにする
- ・各地域の現状把握・分析をもとに、専門部会などでの議論を深める
- ★公共交通を守るため、利用キャンペーンを実施する
- ・行政・自治連などが連携し、生活交通バス等の充実を図る
- ・高速バスやJRがあることを活かす
- ★公共交通を出来るだけ利用する
- ・可能な限りのバリアフリー化を進める
- ★産直市などを活用し、必要なものを買える場所を確保する
- ・必要に応じて、道路網の整備を進める

「豊かな自然をいかし、
環境保護に取り組むエコのまち」

自然・環境

- ★川水浴場づくりや魚の放流など川に親しめる環境を整える
- ・親水護岸や散策路の整備を行う
- ★自然体験の場を増やし、環境教育を推進する
- ★都市との交流を積極的に推進し、地域へ波及させる
- ・河川の汚濁防止のため、下水道加入や浄化槽設置を促進する
- ・河川内の樹木を適切に管理する
- ★広葉樹林の育成・除間伐など適切な森林管理を行い、同好会や地域が個人を支援する仕組みをつくる
- ・在来種の美しさをPRし、あわせて外来種の増加などの問題点についても情報を発信する

- ・山・川の資源を有効活用し、消費拡大と特産化をめざす
- ・主観的基準ではなく客観的基準を基に三次の環境を活かしたゴールを設定し、自然環境の保護を進める
- ・ゴミの減量に向けた明確な目標設定を行い、広報や出前講座などの啓発活動を行う
- ・生ごみコンポストを普及する
- ・自然エネルギーに対する助成を行う
- ・小水力発電などの自然エネルギーの活用を進める
- ・間伐材の積極的な使用などのモデル事業を実施する
- ★家庭菜園や朝市の取組を進める
- ★地産地消の取組を企業等へも普及させ、誰もが地元の産品を買う意識をもつ

分野：次世代を担う子どもたちが夢と希望を抱き、健やかに成長できるまちづくり

「ふるさとが子どもを育て、 ふるさとを誇りにできるまち」

キーワード・自然、地域

- ★ ■ 顔の見えるコミュニティがあるまち
(町内会や住民自治組織を中心とした相互協力体制、
子育て支援、文化伝統の継承、食農教育、
コミュニケーション能力教育、昔の遊び、情報の受発信など)
- ★ ■ 子どもが主体となって活動する場があるまち
(子ども会活動の充実)
- 豊かなふるさとを生かした自然・社会体験ができるまち
- ★ ・住民自治組織や市民団体による体験活動行事の実施
- ・市がワンストップで許認可、実施団体への助成金支援、
情報提供
- 大学交流、国際交流、社会交流(企業、団体、他地域)のまち
- ★ ・小中学生の交流促進
- ★ ・受け入れの体制づくり
- ・市職員の留学研修制度(国内、国外)

★:たくさんの実現策のなかで、
私たちができること

キーワード・子育て

- 利用しやすい子育てサービスがあるまち
(子育て相談窓口の設置、子育て情報発信、
乳幼児健診と保健師相談、母子保健推進員活動、
子育て支援センター、子育てサポート事業の充実)
- 充実した子どもの医療が受けられるまち
(医療費助成、予防接種助成など)
- 市民団体による子どもの居場所や青少年健全育成の場づくりができるまち
- ★ ■ 子育てサークル、青少年育成団体の取り組みがさかんなまち
- ★ ■ 地域による放課後児童クラブを運営するまち(住民自治組織と連携)
- ★ ■ 全市を挙げて“婚活”を応援するまち
- 安心して子育てができる職場があるまち
(男性・女性とも育児休暇を取得しやすい職場づくり、
育児制度が充実している企業のPR、助成金等優遇制)
- 子育てに理解のある生活環境のまち
(子どもに配慮した図書館サービス、公共施設のバリアフリー化)

「仕事も子育ても あきらめない欲張りなまち」

「学びたい気持ちを応援するまち」

キーワード・学校

- ★ ■ 地域で学校を支えるまち(学校支援地域本部事業、コミュニティスクールなど)
- ・オープンな学校づくり
- ・教員が子どもと向き合える環境づくり
- ★ ・地域人材による部活動指導
- ★ ・多様な個性をもつ子どもへの対応は地域人材を活用
- 学校と子ども、保護者のコミュニケーションづくりができるまち
(報告書類や研究会を減らす、教員の異動が早いので長くする)
- 市民の意見がダイレクトに教育行政に反映できるまち
(県教委、北部事務所、市教委との二重行政の解消)
- 小中学校のそれぞれの役割を尊重しながらも、未就学児教育を含め相互に連携した教育のあるまち
(小中一貫校の見直し、幼稚園・保育所との連携)
- 子どものための学校選択自由制度があるまち
- 学力向上のための教員数を増やすまち
- いじめ解決に取り組むまち
- ・いじめ解決プログラム創設、いじめ解決が認められる、評価される制度
- ・子ども同士でほめあう機会づくり(学校内)
- ★ ・保護者同士のネットワークづくり
- ★ ・地域を含め、子どもを見守るシステムづくり
- 危機管理情報が迅速で正確に発信できるまち(SNSなどの不正確情報に対抗)
- 三次という地の利を生かし、給食を利用した食育が充実したまち
(地産地消、栄養士の研修充実・・・人気メニューの意見交換、おいしい給食づくり)
- 学びの自由を助ける通学支援をするまち
(高校生は交通手段が少なくバスの学割が少ない、広島市内への通学ため急行みよし号復活)

キーワード・保育

- 広く誰でも利用できる保育サービスが充実したまち
- ・数は多いが希望場所に入れない
- ・多様な保育希望者に対応できるサービスの提供
- ・幼保連携型の認定こども園の設置
- ・0～1歳の待機児童の解消
- ・第3子の保育料無料の継続
- ・正規職員を確保して安心して預けられる体制づくり
(保育士の職場改善)
- ・病中病後児への対応強化
- ・夜間保育の導入
- 未就学児教育が充実したまち
- 危機管理情報が迅速で正確に発信できるまち
- ・保育所、幼稚園を介しての情報の発信と共有

「子どもとともに成長する保育のあるまち」

「一人ひとりが四季折々の三次を盛り上げるまち」

住民自治・生涯学習

- ★ ■情報の発信と受信ができる関係づくり
- ★ ■伝統行事実施地域以外の地域から人を呼び込むなどの工夫をし、現在継承されている伝統行事を開催し続ける
- ★ ■地域間の交流を活発にするために全市民が参加できる行事を開催する
 - 全市民に学習の機会がある図書館を活用する

★：たくさんの実現策のなかで、
私たちができること

「男女が協力してつくる、人にやさしく住みよいまち」

平和・人権・男女共同参画

- 戦争の記憶を後世に伝える仕組みを作る
- ★ ■結婚がしやすく、子育てもしやすい環境をつくる
 - 女性がさらに地域行事や社会的活動に積極的に参加できるような環境づくりをする

芸術・文化

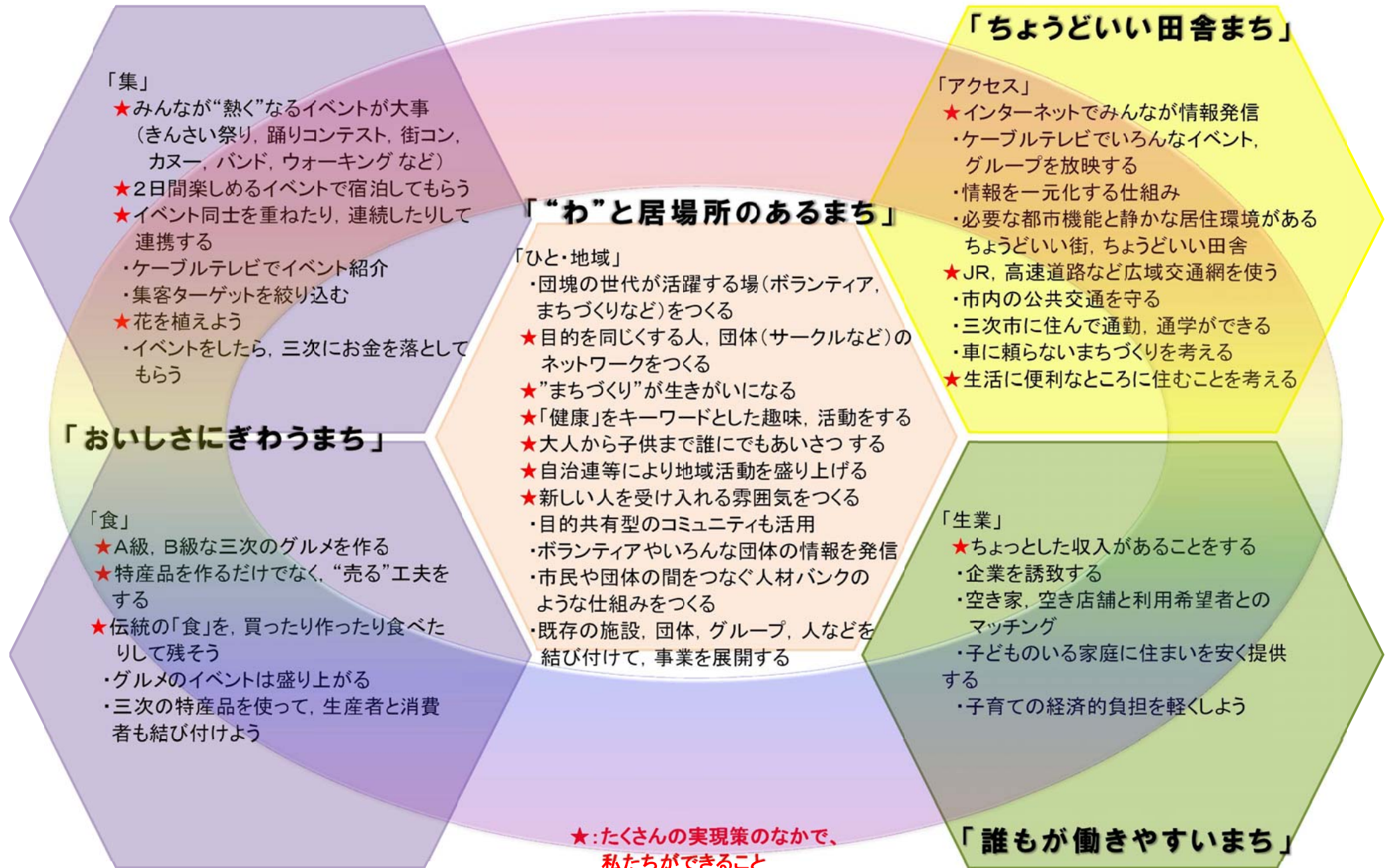
- プラネタリウムや美術館がある素晴らしい環境を活かした芸術活動の発信をする
- ★ ■若年層の後継者を育てるため、聞き取りなどを行い、意識改革を行う
 - 子どものころから、鵜舟に乗るなどの体験を通して、文化・歴史に触れ合う機会をつくる
- ★ ■伝統行事や史跡文化の実態を把握し、三次市にある文化・歴史の発掘を行う
- ★ ■文化的、歴史的な記録を後世に残すためデータベースを作るなどの工夫をする
- ★ ■市民ホールなどの文化施設を通して文化を継承する
- ★ ■文化的・歴史的な事柄についての、子どもから高齢者までの認知度を向上させるため、積極的な情報発信をする
 - 三次市オリジナルの統一デザインによるPRをする
 - 市外に向けて、フインカラーを使用するなどの見せ方を工夫した、三次市の特色ある情報発信をする

スポーツ

- 気軽にウォーキングなどのスポーツに参加できるように、日頃からスポーツに慣れ親しめる環境づくりをする
- ★ ■スポーツ指導者の確保をする
- ★ ■施設を有効利用するため、利用状況などの周知をする
- ★ ■全市民が参加できるようなスポーツ大会を開催する

「三次色の文化をみんなで広げていけるまち」

「いつでも、だれでも、体力作りを実践できる元気なまち」



人が集まり、にぎわいがあるまち

分野別：多様な仕事を興し、地域産業に活力を与え、
働く喜びをもてるまちづくり

観光産業

方向性

- 三次市を目的地とし、長い時間滞在して観光をする人を増やす（総観光客数の増加）
- 三次の魅力を知ってもらい、特産品やサービスにお金を使ってもらう（観光消費額の増加）
- 観光産業に携わり、生業とする人を増やす（観光産業従事者の増加）

- 体験交流による滞在時間の延伸を図る
 - ・体験交流プログラムで産業をつくる
- ★ ■魅力的な商品やサービスの開発を進める
 - ・若者が魅力に感じる観光サービスをつくる
 - ・食の開発
- 観光資源の磨き上げと連携を図る
 - ・観光資源をまとめて、繋ぎ合わせる
 - 観光プロデューサーを設置する
 - 鵜飼の魅力を高める
 - 美術館の企画展を充実する
- 強力な情報発信をする
 - ・積極的なPR活動をする

産業・経済

分野の方向性

- ◎三次の魅力を高める
- ◎三次で働ける環境をつくる
- ◎後継者を育てる
- ◎連携

商工業

方向性

- 若者が働く場所をつくる（若者の働く場の確保）
- 女性やシニア層の社会参入を促す（多様な人の雇用の確保）
- 時代に合ったサービスや産業への転換や企業の異業種参入を促す（時代に合った事業転換）
- 企業同士のマッチングや他の業種との交流の場をつくる
 - ・企業同士のマッチング会をする
 - ・農業と連携した商品を開発する
- 地域内での就職を促進する
 - ・就職相談会をする
- ★ ■事業所内の世代交代の促進
 - ・就職で地域に帰る仕組みをつくる
 - 奨学金制度の活用
- 商店街の活性化
 - ・空き店舗を活用する
- 企業誘致活動の加速
 - ・工業団地の販売促進をする
- 学校教育の中に職業教育を積極的に取り入れる
 - ・中学生や高校生を対象にして職業に対する教育をする

みんなが働くことができるまち

楽しくできる農林畜産業があるまち

農林畜産業

方向性

- 専業農家を見通した後継者の受入と育成（後継者育成）
- 農地や里山の保全（さとやま保全）
- 農事組合法人や農業に関するつながりを維持・拡大する
 - ・農業環境や農地の保全のため農事組合法人を活かす
 - ・専業農家のネットワークを大切にする
- 積極的にチャレンジし、儲ける農業を実現する
 - ・「守る」から「攻める」農事組合法人への転換を図る
 - ・専業農家への事業拡大を支援する
 - ・企業の農業参入を促進する
- 担い手の育成を行う
 - ・専業就農を希望するIJUターン者を研修する
 - ・就農希望者の定住のための条件を整備する
- 専業農家に積極的にチャレンジできる環境整備を促す
 - ・農家・農業団体・市が連携して魅力ある農産品をつくる
- 農業と連携する新分野への参入を図る
 - ・小さいときから農業に携わる環境づくりをする
 - ・教育や福利厚生といった分野でサービスを提供する
 - ・農林畜産業と商工業との連携を生み出す

検討の経過

開催日	内 容
平成 24 年 10 月 25 日(木)	第1回 <全体会> 講演会 三次市の今後のまちづくりを考える 講 師:広島大学 教授 伊藤敏安 先生 三次市を中心とした人口とその構成の変化, 財政・徴税の動向の点から, まちづくりの課題について, 講演いただきました。 その後各班に分かれて, 各委員の紹介や座長, 副座長の選任等を行いました。
平成 24 年 11 月 15 日(木)	第2回 まちづくりの課題について考える(その1) ～市民と行政で課題の共有化を図る～ 総合計画や三次市の財政状況について話を聞いたのち, 各班に分かれて, 三次市のまちづくりについて, 日頃感じている良いところや問題だと思ふところを話しました。
平成 24 年 12 月 3 日(月)	第3回 <全体会> 講演会 社会環境の変化の中で三次市はどうあるべきか ～三次の未来は女性とシニア層にあり～ 講 師:(株)日本総合研究所 藻谷浩介 先生 社会環境や経済情勢の変化の中で中山間地である三次が生き残るためにはどうしたらいいかについてお話いただきました。
平成 25 年 1 月 16 日(水) 1 月 17 日(木) 1 月 18 日(金)	第4回 まちづくりの課題について考える(その2) ～市民と行政で課題の共有化を図る～ 今後のまちづくりの方向性を共有し, 各班の検討テーマや内容を決め, 検討テーマに関する課題の解決方法を話し合いました。
平成 25 年 2 月 13 日(水) 2 月 15 日(金) 2 月 18 日(月)	第5回 みんなで協働して取り組むことを考える(その1) ～市民と行政の役割分担を考える～ 検討テーマに関する課題の解決方法や今後のまちづくりのための具体的な取り組みのアイデア, 市民・行政の役割等を検討しました。
平成 25 年 3 月 2 日(土)	第6回 <全体会> 講演会 地域再生の道～三次のためにあなたができること～ 講師: 明治大学 教授 小田切徳美 先生 中山間地域の未来と再生についてお話いただきました。
平成 25 年 3 月 12 日(火) 3 月 13 日(水) 3 月 18 日(月)	第7回 みんなで協働して取り組むことを考える (その2) ～市民と行政の協働の意識を育む～ 課題の解決方法や具体的な取り組みのアイデア, 市民・行政の役割, 優先的に取り組むこと等を検討しました。またこれまでの検討結果を整理し, 報告としてまとめました。
平成 25 年 4 月 19 日(金)	第8回 <全体会>報告会 各班ごとにとりまとめの発表を行いました。

委員名簿

◎座長 ○副座長 （順不同）

分野：共に認めあい、支えあう、温かみと安心感のあるまちづくり



◎ 安信 祐治	○ 岡崎 薫
池口 一子	沖田 陣子
黒田 博巳	杉田 善信
添田 龍彦	富井としみ
花本 好正	久藤 早苗
福島 貴子	森本 徳明

分野：自然との共生を図り、安全で快適に暮らせるまちづくり



◎ 馬場 博通	○ 山田加代子
雨田 佳子	酒井 久子
佐々部隆好	高嶋希世美
武村 優子	中岡 良子
野口 拓郎	問谷 宏志

分野：次世代を担う子どもたちが夢と希望を抱き、健やかに成長できるまちづくり



◎ 深水 顕真	○ 浦田 愛
犬石 国男	長谷川さとみ
林 久美子	福永真奈美
正光 祐希	松重 信子
森 皇代	柳 久美

分野：歴史と伝統を継承するとともに、学ぶ喜びをもてるまちづくり



◎ 升井 紘	○ 的場 由樹
岸本 正行	坂田 尚也
鹿本 由美	竹内 克彦
花神佐市郎	松島 和枝
松村紘二郎	村山 朋子

分野：地域活動が活発で、にぎわいと活力に満ちたまちづくり



◎ 和田 健作	○ 田村 謙宗
垣内 博昭	川島 佳子
小林 勇樹	梵 大英
土井垣秀子	野田恵里子
福田 翼	道原愛二郎

分野：多様な仕事を興し、地域産業に活力を与え、働く喜びをもてるまちづくり



◎ 月橋 寿文	○ 麻野 恭子
石田 智史	片岡 宏文
児玉 勇	坂田 悟子
芝床 直樹	中村 周六
橋本 正二	横手 進

※ 掲載写真は、平成25年4月19日開催の「市民まちづくり塾 報告会」で撮影したものです。